

令和元年度(2019年度)

病害虫発生予察情報 第12号

6月月報

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)7月19日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨・並照』前半は少雨となるも、後半にまとまった雨－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、中頃には低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。中旬以降は概ね数日の周期で天気が変わったが、16日や22日には低気圧や気圧の谷の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。気温は上旬は平年より高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬は平年より少なかったが、月降水量は平年並だった。日照時間はいずれの旬も平年並で、月間日照時間も平年並だった。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所も多かった。2日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れたが、はじめ大気の状態が不安定となって雨の降った所があった。3日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。4日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた所もあった。5日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降った。6日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。7日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。8～10日は気圧の尾根の中となって日本海側や太平洋側西部を中心に晴れたが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。

中旬：11日は千島近海の高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れた。12～13日は気圧の谷の中となって雨の降った所があったが、日本海側南部や太平洋側では晴れた所もあった。14日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所もあった。15日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所があったが、低気圧が接近して広い範囲で雨が降った。16日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨が降った。日降水量は標津町糸櫛別で77.5mmなど。17日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあった。18～20日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、大気の状態が不安定となって雨の降った所があった。

下旬：21日は低気圧を含む気圧の谷の影響により日本海側や太平洋側西部で雨の降った所があったが、オホーツク海側南部などでは晴れた所もあった。22日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は白老町森野で145.5mmなど。23日ははじめ気圧の谷の影響により日本海側を中心に雨の降った所があったが、次第に気圧の尾根の中となって晴れた所が多かった。24～26日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。27日は高気圧の張り出しの中となって日本海側南部や太平洋側では晴れた所が多かったが、日本海側北部やオホーツク海側では湿った気流の影響で雨の降った所があった。28～29日は気圧の谷の中となって雨の降った所が多かった。30日は気圧の谷の影響で朝晩を中心に雨の降った所が多かったが、日中は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側では晴れた所も多かった。

気象表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%)を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+1.0	高	92	並	102	並
日本海側10地点平均	+0.8	高	87	並	103	並
オホーツク海側4地点平均	+1.1	高	102	並	91	並
太平洋側8地点平均	+1.0	高	93	並	106	並

階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稲

1. いもち病(葉いもち) 発生期(取り置き苗) やや早

予察田の「きらら397」における取り置き苗(接種)の初発期は、岩見沢市および北斗市では平年より早く、比布町では平年よりやや遅かった。「きらら397」の本田での初発は、北斗市で平年より早く認められた。

予察田におけるいもち病の発生状況

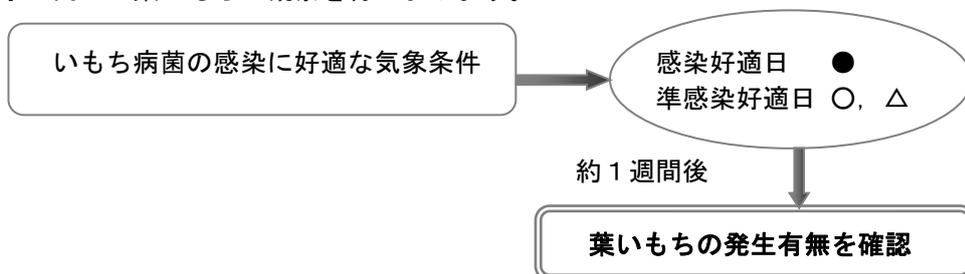
地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月19日	6月28日	未発生	7月20日	8
	ななつぼし	6月19日	6月28日	未発生	7月18日	8
比布町	きらら397	6月24日	6月21日	未発生	7月12日	10
	ななつぼし	6月24日	6月27日	未発生	7月12日	3
北斗市	きらら397	6月13日	6月21日	7月11日	7月17日	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

葉いもち発生予測システム「BLASTAM」(ブラスタム)の利用方法

BLASTAMは、アメダスの気象データ(気温・降雨・風速・日照)を利用して、いもち病の感染が起こりやすい日(感染好適日・準感染好適日)を推定するものです。

感染のおよそ1週間後頃から、葉いもち病斑が見えるようになります。好適日から約1週間後に、水田内での葉いもちの観察を行きましょう。



BLASTAM予測結果は防除所のホームページで確認できます!!

2. ヒメトビウンカ（第1回） 発生量 並

予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。長沼町では捕獲されなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	2.9	10	30.8	2.5	0.8
2半旬	0	1.8	10	28.1	2.5	0.3
3半旬	0	2.7	10	12.5	2.5	0
4半旬	0	0.7	0	4.4	0	0
5半旬	0	0.5	0	0.1	2.5	0
6半旬	0	0	10	0.8	0	0
平年数	7		10		10	

3. イネドロオイムシ 発生期 やや早 発生量 並

予察田における産卵初発期は、長沼町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早く、比布町では平年より遅かった。幼虫初発期は長沼町および北斗市で平年並、比布町では平年より遅かった。卵塊数は長沼町で平年より多く、比布町および北斗市では平年より少なかった。幼虫の発生量は長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。比布町では幼虫の発生が認められなかった。

巡回調査では、要防除水準（2卵塊/株）を超える地点は認められていない。

予察田におけるイネドロオイムシの初発期

	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
産卵	5. VI	6. III	6. V	6. III	6. II	6. III
幼虫	6. IV	6. IV	7. I	6. IV	6. IV	6. IV
平年数	7		10		10	

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	卵塊数(25株あたり)						幼虫数(25株あたり)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.2	0	2.3	0	1.2	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	1.0	0	12.1	0.5	1.8	0	3.5	0	1.6	0	0
3半旬	0	0.9	0	23.3	1.5	5.3	0	0.2	0	13.3	0	3.1
4半旬	21	1.0	0	25.3	3.5	13.7	6	4.1	0	78.9	4	19.8
5半旬	26	7.2	0	18.0	4	8.3	57	4.2	0	133.2	16	25.8
6半旬	35	9.1	2	8.7	2	6.2	108	15.4	0	163.4	32	154.6
平年数	7		10		10		7		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの卵塊数(25株あたり)

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	0.7	1.8	1.8	1.6
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0.7	0
	中空知	4	1	0.8	0.8	0.3
	北空知	7	1.1	1.0	1.3	1.9
石狩	本所	5	0.4	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0.3
胆振	東胆振	4	1	0	0.3	0
普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
日高	西部	3	0	0	0	0
	渡島	3	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0
	富良野	2	0	0	0	8.5
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0
	名寄	2	0	0	0	0
留萌	本所	5	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第1回)

発生期 早 発生量 やや多

<7月19日付け注意報第5号>

予察灯による第1回成虫の初誘殺日は、いずれの地点においても平年より早かった。誘殺数は、長沼町で平年並、比布町および北斗市では平年よりやや少なかった。予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、長沼町および比布町で平年より多く、北斗市では平年並だった。

巡回調査では、多発生の目安となる畦畔すくい取り捕獲数5頭(第1回発生期)に達した地点は、空知の1地点および石狩地方の2地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	3	1.3	2	2.2	9	0	32.5	1.4	0	0.1	0	1.5
2半旬	10	1.2	0	1.2	2	0.2	32.5	1.8	20	0.6	2.5	1.0
3半旬	18	5.7	0	1.6	0	0	115	7.9	20	0.5	2.5	0.8
4半旬	1	10.3	0	2.0	1	3.0	7.5	5.4	0	1.5	0	1.3
5半旬	13	9.3	2	1.9	1	7.0	0	1.6	5	0	2.5	1.3
6半旬	1	21.7	1	2.8	5	15.2	5	2.9	0	0.6	0	2.0
初誘殺日	5月26日	6月11日	5月26日	6月16日	5月27日	6月19日						
平年数	10		10		10		7		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の畦畔すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点数	6月6半旬		普及センター	地点数	6月6半旬				
		本年	前年			本年	前年			
空知	本所	6	0.3	0	日高	西部	3	0	0	
	南東部	2	0	0		渡島	本所	3	0.3	0.3
	南西部	3	0.7	0			檜山	本所	2	0.3
	中空知	4	6.0	0		北部		2	0	0
	北空知	7	1.3	0.7		上川	本所	8	1.0	0.3
石狩	本所	5	5.6	0.8	富良野		2	0.5	0	
	北部	7	0.7	0	大雪		4	1.0	1.3	
後志	本所	4	0.5	0	士別		2	0.5	0	
	東胆振	4	0	0	名寄		2	0	0	
留萌	本所	5	0	0	留萌	本所	5	0	0	
	南留萌	3	1.7	0		南留萌	3	1.7	0	

5. フタオビコヤガ(第1回) 発生量 並

予察田において、第1回幼虫の発生量および幼虫被害は長沼町で平年より多かった。比布町および北斗市では幼虫の発生が認められなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2半旬	0.5	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0
3半旬	2	0.1	0	0.3	0	0	1.3	0	0	0.4	0	0
4半旬	2	0	0	0.8	0	0	4.8	0	0	1.1	0	0
5半旬	3	0.1	0	0.2	0	0	6	0.1	0	1.3	0	0
6半旬	4	0.2	0	0.3	0	0	9.4	0.8	0	1.3	0	0.0
平年数	7		10		10		7		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生量 やや多

予察ほの「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年より多く、訓子府町では平年並、芽室町では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、一部地域では発生が多く認められている。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	全葉	11.56	0.92	32.98	5.01	-	18.44	9
		最上位葉	0.84	0.14	9.90	1.18	-	10.37	
		最上-1葉	9.94	0.51	51.40	3.81	-	22.82	
芽室町	きたほなみ	全葉	0.00	0.39	0.01	1.26	0.25	5.92	10
		最上位葉	0	0.00	0	0.32	0.00	4.13	
		最上-1葉	0.00	0.16	0.00	0.92	0.14	6.33	
訓子府町	きたほなみ	全葉	0.23	0.27	2.23	1.02	12.62	18.72	10
		最上位葉	0.03	0	0.17	0.20	6.95	3.03	
		最上-1葉	0.14	0.03	1.22	0.84	13.00	13.27	

注) - : 調査不能

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)		普及センター		地点数	病葉率(%)		
			6月3半旬					6月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	50.17	-	留萌	本所	4	-	-	
	南東部	2	0	-		網走	本所	8	3.25	0
	南西部	5	-	-			清里	5	0	0
	北空知	5	-	-			網走	2	5.00	0
石狩	本所	6	-	-	美幌		5	0	0	
	北部	6	0.75	0	遠軽	9	0	0		
後志	本所	3	-	0	紋別	2	0	0		
胆振	本所	3	-	0	十勝	本所	6	-	-	
	東胆振	3	-	-		東部	6	-	-	
檜山	本所	2	5.00	-		東北部	5	-	-	
	北部	2	10.00	-		北部	3	0	0	
上川	本所	3	-	0		西部	3	18.33	1.67	
	富良野	3	-	-	南部	3	0	-		
	大雪	3	4.00	-						
	士別	4	0	0						
	名寄	2	2.00	0						

注1) - : 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

2. うどんこ病 発生量 少

予察ほの感受性品種「チホクコムギ」における発生は、長沼町、芽室町で平年より少なく、訓子府町で平年よりやや少なかった。主要品種「きたほなみ」での発生は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、6月3半旬時点ではオホーツク地方で発生が認められている。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数	
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬			
			本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長沼町	チホクコムギ	全葉	0.81	4.71	0.22	7.10	0.12	11.87	10	
		最上位葉	0.04	0.43	0.06	1.82	0.12	4.86		
		最上-1葉	1.36	2.71	0.38	11.29	-	20.02		
	きたほなみ	全葉	0	0.27	0	0.29	-	0.29		9
		最上位葉	0	0	0	0.01	-	0.08		
		最上-1葉	0	0.02	0	0.09	-	0.19		
芽室町	チホクコムギ	全葉	0.23	9.03	1.36	12.64	2.48	16.01	10	
		最上位葉	0.03	1.24	0.37	4.61	0.38	9.49		
		最上-1葉	0.33	5.97	2.15	12.39	2.49	24.38		
	きたほなみ	全葉	0	0.10	0	0.14	0	0.18		10
		最上位葉	0	0.00	0	0.01	0	0.02		
		最上-1葉	0	0.03	0	0.06	0	0.12		
訓子府町	チホクコムギ	全葉	1.80	5.93	2.07	8.28	6.78	11.56	10	
		最上位葉	0.14	0.10	0.29	0.82	2.13	2.15		
		最上-1葉	1.47	1.63	2.45	5.83	9.05	14.65		
	きたほなみ	全葉	0	0.12	0	0.23	0	0.77		10
		最上位葉	0	0	0	0.01	0	0.05		
		最上-1葉	0.01	0.01	0.01	0.07	0	0.29		

注) - : 調査不能

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)		普及センター		地点数	病葉率(%)		
			6月3半旬					6月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	0	-	留萌	本所	4	-	-	
	南東部	2	0	-		網走	本所	8	0.63	0
	南西部	5	-	-			清里	5	0	0
	北空知	5	-	-			網走	2	0	0
石狩	本所	6	-	-	美幌		5	0	0	
	北部	6	0	0	遠軽	9	0	0		
後志	本所	3	-	0	紋別	2	0	0		
胆振	本所	3	0	0.33	十勝	本所	6	-	-	
	東胆振	3	-	-		東部	6	-	-	
檜山	本所	2	0	-		東北部	5	-	-	
	北部	2	0	-		北部	3	0	0	
上川	本所	3	-	0		西部	3	0	0.67	
	富良野	3	-	-	南部	3	0	-		
	大雪	3	0	-						
	士別	4	0	0						
	名寄	2	0	0						

注1) - : 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

3. アブラムシ類 発生期 早 発生量 やや多

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町および訓子府町で平年より早かった。ムギヒゲナガアブラムシの発生量は長沼町で平年より多く、訓子府町では平年よりやや多かった。ムギクビレアブラムシの発生は、いずれの地点も認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	14	0.0	1	0.3	0	0.0	0	23.4
3半旬	7	0.1	1	0.3	0	0.0	0	12.0
4半旬	5	1.5	11	0.8	0	0.2	0	4.6
5半旬	6	1.3	7	12.2	0	0.1	0	5.6
6半旬	3	3.6	16	14.8	0	4.2	0	12.3
初発期	6. II	6. V	6. II	6. V	7. II	6. VI	-	6. IV
平年数	10		9		10		9	

注) 25穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生量 多

予察ほにおける成虫すくい取り数は、長沼町および比布町で平年より多かった。

予察ほの春まき小麦におけるムギキモグリバエのすくい取り数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	157.5	24.7	380	123.5
2半旬	97.5	27.2	580	165.0
3半旬	70.8	13.5	650	75.6
4半旬	12.5	7.5	150	22.8
5半旬	10	6.6	120	6.4
6半旬	0	2.7	20	10.3
平年数	7		10	

注) 20回振り×5日分換算値

D. 豆類

1. タネバエ (大豆) 発生量 並

予察ほの大豆における被害個体率は、長沼町で平年より高く、訓子府町で平年並、芽室町では平年よりやや低かった。

予察ほにおけるタネバエの被害状況(%)

	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害個体率	68.3	30.5	1.1	3.3	7.3	5.4
健全個体率	23.9	60.5	92.6	91.6	91.3	87.0
他不出芽	7.8	8.7	6.3	5.1	1.3	7.6
平年数	10		9		10	

注) 他不出芽: タネバエ被害以外の不出芽を示す

2. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生期 やや早 発生量 並

黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、いずれの地点においても平年よりやや早かった。黄色水盤による捕獲数は、いずれの地点においても平年並であった。

予察ほの大豆における寄生虫数は、訓子府町で平年よりやや多く、長沼町および芽室町で平年並であった。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシの誘殺数と初発期

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1.7	2.6	0	0.6	1	0.7
2半旬	2.8	7.1	1	1.5	0.4	1.6
3半旬	2.5	2.9	0	0.2	0.1	0.4
4半旬	0	2.3	0	0.3	0	0.3
5半旬	5	2.1	0	0.2	0.5	0.6
6半旬	1	0.9	0	0.1	0.5	0.8
初発期	5. VI	6. I	6. II	6. III	6. I	6. II
平年数	10		10		10	

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生状況

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	-	0	-	0	1	0
2半旬	-	2.4	0	0.6	8	0.3
3半旬	0	8.1	0	0.0	1	5.2
4半旬	16	6.5	6	2.1	3	3.2
5半旬	4	7.6	0	2.0	6	3.1
6半旬	1	4.8	0	3.0	6	3.1
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉(計50小葉)あたりの寄生虫数

-: 出芽期が長沼町で6月12日、芽室町では6月6日のため未調査

3. マメアブラムシ(小豆) 発生期 やや早 発生量 並

予察ほにおける初発期は、長沼町および芽室町で平年よりやや早く、訓子府町では平年より遅かった。寄生株率は芽室町では平年より高く、長沼町で平年よりやや低かった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシ寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	-	0	-	0.2	0	0
3半旬	-	1.1	0	0.3	0	0
4半旬	2	6.2	16	0.8	0	0.5
5半旬	8	11.1	12	2.1	0	0.4
6半旬	6	9.8	32	8.1	0	4.4
初発期	6. IV	6. V	6. IV	6. V	7. III	7. I
平年数	9		10		9	

注)-: 出芽期が長沼町で6月17日、芽室町では6月10日のため未調査

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 -

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、訓子府町では平年よりやや遅かった。長沼町、芽室町では初発は認めていない。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、檜山地方で発生が認められている。

予察ほにおける疫病の初発期

地点	品種名	本年	平年	平年数
長沼町	とうや	未発生	7月18日	10
	スノーマーチ	未発生	7月22日	10
北斗市	とうや	6月6日	7月9日	10
芽室町	とうや	未発生	7月9日	10
	スノーマーチ	未発生	7月10日	10
	男爵薯	未発生	7月9日	10
	紅丸	未発生	7月11日	10
訓子府町	とうや	7月16日	7月13日	10
	スノーマーチ	7月16日	7月14日	10

一般ほにおける疫病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	発病株率(%)		普及センター		調査地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬					6月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	南東部	1	0	0	網走	本所	6	0	0
後志	本所	4	0	0		清里	5	0	0
胆振	本所	2	0	1.0		網走	2	0	0
渡島	本所	2	0	0		美幌	2	0	0
檜山	本所	4	5.0	0	十勝	本所	5	0	0
	北部	4	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	3	0	0	東北部	1	0	0	
	大雪	3	0	0	北部	3	0	0	
	士別	1	0	0	西部	3	0	0	
	名寄	1	0	0	南部	3	0	0.7	
					釧路	本所	2	0	0
					根室	北根室	3	0	0

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや少なかった。芽室町では発生が認められていない。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年並であった。モモアカアブラムシの発生量は、長沼町で平年よりやや多かった。ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ両種ともに芽室町および訓子府町では発生が認められていない。

巡回調査では、6月6半旬の調査で全66地点中8地点で寄生が認められた。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						モモアカアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0.1	0.6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0
2半旬	0.1	1.2	0	0	0	0.9	0	0.1	0	0	0	0
3半旬	0.5	0.9	0	0.3	0.5	0.6	0	0	0	0	0	0
4半旬	1.5	1.0	0	0.1	1.5	0.8	0	0	0	0	0	0
5半旬	2.3	1.6	0	0.1	1	2.3	0.3	0	0	0	0	0
6半旬	0.8	2.5	0	1.1	2	8.9	0.8	0.1	0	0	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

月・半旬	ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0	0	0	0	0
3半旬	0	0.2	0	0	0	0
4半旬	0	0.3	0	0.1	0	0.6
5半旬	1.5	1.0	0	0.4	0	0.1
6半旬	1.2	2.4	0	0.3	0	2.8
平年数	10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬	
		本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0
後志	本所	4	0	0	1.3
胆振	本所	2	0	0.5	0
渡島	本所	2	0.5	1.0	8.5
檜山	本所	4	0	0	0
	北部	4	0	0	0.5
上川	富良野	3	0	0	0
	大雪	3	0	0	1.7
	士別	1	0	0	0
	名寄	1	0	0	1.0
網走	本所	6	0	0.3	0.2
	清里	5	0	0.3	0
	網走	2	0	0	0
	美幌	2	0	0	0
十勝	本所	5	0	0	0
	東部	6	0.2	0	0
	東北部	1	0	0	0
	北部	3	0	1.3	0
	西部	3	0	0.7	0
	南部	3	0.4	13.3	0
釧路	本所	2	0	0	0
根室	北根室	3	0.3	0	2.7

注) 10株20複葉調査

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 ー

予察ほにおける初発期は、芽室町で平年より早く、訓子府町で平年よりやや遅かった。長沼町では初発は認められていない。

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	ライエン	未発生	7月12日	4
	あまいぶき	未発生	7月10日	9
芽室町	リッカ	6月26日	7月9日	4
	あまいぶき	6月26日	7月11日	7
	スタウト	7月4日	7月14日	8
訓子府町	リッカ	7月15日	7月11日	10

2. ヨトウガ (第1回) 発生期 早 発生量 やや多 <6月12日付け注意報第4号>

予察ほにおける産卵の初発期は、長沼町および芽室町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや遅かった。卵塊数は、長沼町で平年より多く、芽室町および訓子府町では平年並であった。

食害程度は長沼町および芽室町で平年より高かった。訓子府町では食害が認められなかった。

巡回調査によると、石狩地方の1地点で被害株率が96%と、要防除水準(被害株率50%)に達していた。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	8	0.4	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	12	2.9	1	0.6	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
3半旬	11	5.5	1	1.9	0	0.0	0.8	0.6	0	0.0	0	0.0
4半旬	4	6.2	2	1.8	0	0.7	5.5	1.2	0	0.1	0	0.0
5半旬	3	2.8	0	1.6	0	0.1	16.5	7.5	7	1.4	0	0.3
6半旬	2	1.3	0	0.6	1	0.4	18.3	13.1	10	4.4	0	1.4
初発期	5.VI	6.III	6.I	6.III	6.VI	6.V						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	6月6半旬		普及センター	地点数	6月6半旬				
		本年	前年			本年	前年			
空知	南東部	1	8.0	2.0	網走	本所	10	3.8	7.0	
	石狩	本所	4	33.0		12.5	清里	3	0.7	2.3
	後志	本所	3	4.0		4.0	網走	2	13.0	2.0
	胆振	本所	4	8.0		2.8	美幌	5	0.4	0
		東胆振	3	10.7		9.3	遠軽	9	2.9	14.9
上川	富良野	3	4.0	0	十勝	本所	5	0.8	2.0	
	大雪	3	0	0		東部	6	10.3	5.7	
	士別	2	0	0		東北部	4	1.5	5.0	
	名寄	1	7.0	38.0		北部	3	0	0	
					西部	3	2.0	1.3		
					南部	3	1.5	0		

注) 50株調査

3. テンサイトビハムシ 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、長沼町および訓子府町で平年並で、芽室町では平年より低かった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	32	27.5	6	11.7	12	22.3
2半旬	31	27.9	6	11.1	21	24.6
平年数	10		10		9	

4. テンサイモグリハナバエ 発生量 少

予察ほでは、いずれの地点においても被害が認められなかった。

予察ほにおけるテンサイモグリハナバエの被害葉率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0.0	0	0	0	0
3半旬	0	0	0	0	0	0
4半旬	0	0.2	0	0	0	0.0
5半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.1
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	0.2
平年数	10		10		9	

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生期 やや早 発生量 少

予察ほにおける初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや遅かった。6月6半旬における発生量は、長沼町で平年より少なく、訓子府町で平年よりやや少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、オホーツク地方で発生が認められている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	6月11日	6月18日	0	0	0.5	5.9	2.5	21.8	9
訓子府町	北もみじ2000	6月26日	6月22日	0	0	0	0.5	1.0	3.8	7

一般ほにおける白斑葉枯病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	発病株率(%)		普及センター		調査地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬					6月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	5	0	0	上川	富良野	4	0	0
	南東部	3	0	1.3		士別	2	0	0
	南西部	1	0	0	網走	本所	8	0.1	0.8
	中空知	1	0	2.0		美幌	4	0.5	1.0
石狩	北部	2	0	0		遠軽	3	0	0
					十勝	東部	2	0	10.0

2. ネギアザミウマ

発生期 早

発生量 多

<6月4日付け注意報第3号>

<7月19日付け注意報第6号>

予察ほにおける幼虫および被害の初発期は、長沼町および訓子府町で平年より早かった。寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町ともに平年より多かった。被害程度は、長沼町、訓子府町ともに平年より高かった。

巡回調査では、寄生株率50%以上の地点は全37地点中、空知地方の5地点および十勝地方の2地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.1	0	0	13	0.1	24	0.5
2半旬	16	0.1	41	0	30	1.5	25	3.7
3半旬	80	0.7	205	3.3	35	2.4	44	7.4
4半旬	267	6.6	1353	23.0	46	5.4	72	20.9
5半旬	592	59.2	2406	93.7	56	9.5	98	29.5
6半旬	686	185.4	3948	559.5	68	15.1	100	41.5
初発期	6. II	6. IV	6. II	6. IV	5. VI	6. III	5. IV	6. II
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	6月6半旬		普及センター	地点数	6月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	5	76.0	1.6	上川	富良野	4	3.0	3.0
	南東部	3	20.0	0		士別	2	0	0
	南西部	3	40.0	2.7	網走	本所	8	16.5	4.3
	中空知	1	16.0	2.0		美幌	4	2.0	6.5
石狩	北部	2	4.0	26.0	遠軽	3	28.0	1.3	
					十勝	東部	2	92.0	26.0

注) 25株調査

H. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ

発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1	5.3	30	7.4
2半旬	2	13.9	6.8	7.3
3半旬	4	22.2	10	9.1
4半旬	7	24.2	16.4	8.0
5半旬	3	17.2	23.6	5.4
6半旬	5	11.9	38.8	2.4
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ

発生量 やや多

フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、比布町、北斗市および滝川市で平年より少なく、芽室町で平年よりやや少なく、訓子府町では平年並であった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町および北斗市で平年より多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	26	25.2	23	38.8	25	40.1	3	12.8	4	6.3	1	5.3
2半旬	23	30.4	5	33.8	28	32.0	6	4.3	8	6.5	0	5.5
3半旬	26	32.9	1	14.5	36	38.6	7.5	3.2	10.5	4.8	5	10.7
4半旬	20	22.7	4	18.3	13	25.9	1.5	5.8	10.5	5.4	0	13.2
5半旬	13	54.7	2	16.8	8	38.7	0	6.0	4	4.3	0	15.7
6半旬	20	65.2	1	20.0	19	26.5	2	6.7	0	4.2	0	21.0
平年数	10		3		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	7	3.2	1.2	1.3
2半旬	3	11.0	0.8	6.5
3半旬	15	16.8	5.2	11.6
4半旬	49	23.0	22.4	7.5
5半旬	93	29.5	22.4	16.7
6半旬	85	53.4	46	13.9
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

I. りんご

1. モニリア病 発生量 少

長沼町(無防除)および余市町(慣行防除)の予察園では、モニリア病の発生は認められなかった。一般園における巡回調査の報告によると本病の発生は認められていない。

予察園(長沼町)におけるモニリア病の発生状況

品種名	昂林			
	実腐花葉叢率(%)		株腐花葉叢率(%)	
	本年	平年	本年	平年
落花10日後	0	0		
落花20日後			0	0

平年値は10年の平均値

予察園(余市町)におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	調査時期	葉腐花葉叢率(%)		平年数
			本年	平年	
余市町B	つがる	6月1週目	0	0.22	10
		6月2週目	0	0.05	
		6月3週目	0	0.08	
余市町C	王林	6月1週目	0	0	3
		6月2週目	0	0	
		6月3週目	0	0	

注) 余市町の予察園は慣行防除

2. 黒星病 発生期 早 発生量 多 <4月22日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）における初発期は、「昂林」、「つがる」ともに平年より早かった。余市町の予察園（慣行防除）では発生を認めていない。発生量は、長沼町の予察園では両品種とも平年より多かった。一般園における巡回調査の報告によると、後志、渡島地方で発生が認められている。

予察園(長沼町)における黒星病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	昂林	5月31日	6月15日	10
	つがる	6月1日	6月15日	10
余市町B	つがる	未発生	6月26日	10
余市町C	王林	未発生	7月26日	3

予察園(長沼町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)											
		6月1半旬		6月2半旬		6月3半旬		6月4半旬		6月5半旬		6月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	昂林	0.7	0.5	2.9	0.9	4.5	2.9	9.3	6.0	16.2	8.5	30.8	11.7
	つがる	0.4	0.1	0.4	0.4	1.2	0.9	1.5	3.4	8.4	5.0	11.5	9.1

注) 平年数は10年

予察園(余市町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		6月1週目		6月2週目		6月3週目		6月4週目		6月5週目	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町B	つがる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
余市町C	王林	0	0.16	0	0.34	0	0.51	0	1.58	0	0.17

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園における黒星病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	病葉率(%)			
			6月3半旬		6月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
後志	北後志	3	0	1.50	0.05	5.23
胆振	本所	1	0	0	0	0
渡島	本所	4	1.80	1.85	2.25	7.08
留萌	南留萌	1	0	0	0	0

3. 斑点落葉病 発生期 やや早 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における初発期は、平年よりやや早かった。発生量は平年よりやや少なかった。余市町Cの予察園（慣行防除）の「王林」では発生を認めていない。

予察園(長沼町)における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	6月24日	6月27日	9

予察園(長沼町)における斑点落葉病の発生状況

地点	品種名	新梢病葉率(%)						平年数
		6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林	0	0	0	0.26	0.35	0.65	9

4. ハマキムシ類 発生期 早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ初誘殺日は、いずれの地点においても平年より早かった。誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aで平年並、余市町Bでは平年より多かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、壮警町でやや多く、伊達市で平年並、札幌市、石狩市、七飯町および旭川市で平年よりやや少なく、岩見沢市では平年より少なかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0	0	0
2半旬	1	1.2	1	0.1	2	0
3半旬	7	2.9	3	0.1	5	0.0
4半旬	4	13.8	3	1.0	4	0.2
5半旬	4	16.8	3	1.8	4	0.8
6半旬	3	24.5	1	4.3	0	1.9
初誘殺日	6月11日	6月18日	6月10日	6月22日	6月9日	6月27日
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮警町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0	0.8	0
2半旬	0	0.2	0.7	0.1	0	0.1	0	0	0	0	0.1	0	4	0.4
3半旬	0	1.0	2.4	1.1	1.7	0	0	0.0	0.6	0.1	0	0.1	10	2.6
4半旬	0	1.8	3.0	3.4	0.3	0.6	0.8	0.3	2.2	0.3	0	1.4	0	9.0
5半旬	0	2.9	3.2	7.9	0	1.5	1.9	1.2	4.4	0.5	0	2.1	1	7.8
6半旬	0.4	1.8	2.2	9.2	0	4.1	1	2.6	2.2	2.4	0.6	4.9	1	6.8
平年数	10		10		8		10		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. モモシンクイガ 発生期 やや早 発生量 並

予察園のフェロモントラップによる初誘殺日は、長沼町で平年よりやや早く、余市町Aで平年並、余市町Bでは平年より早かった。誘殺数はいずれの地点とも平年並であった。

長沼町における産卵初発期は6月25日(平年:7月3日)と平年より早かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市および旭川市で平年よりやや多く、札幌市で平年並、壮警町では平年より少なかった。石狩市、伊達市および七飯町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0.1	0	0
2半旬	0	0.1	0	0.2	0.7	0.2
3半旬	1	0.8	1.1	0.9	0.6	0.9
4半旬	1.8	3.3	3.4	2.9	3.0	4.3
5半旬	6.8	6.1	6.4	5.0	6.4	6.5
6半旬	7.5	13.7	4.3	10.7	17.9	11.3
初誘殺日	6月15日	6月18日	6月18日	6月19日	6月7日	6月16日
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0	0.7	0	0	0	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0
3半旬	0	0	0.7	0.1	0	0	0	0.3	0	0.3	0	0.1	0	0.3
4半旬	0.8	0.1	1.1	0.2	0	0	0	0.9	0.8	1.4	0	0.1	1	0.9
5半旬	2.6	0.6	1.6	2.0	0	0	0	2.4	1.9	4.0	0	0.3	11	3.8
6半旬	2.7	1.3	4.1	3.7	0	0	0	6.3	3	7.4	0	0.6	12	8.3
平年数	10		10		8		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

6. ハダニ類 発生量 少

リンゴハダニの発生は、長沼町、余市町AおよびBのいずれの地点においても認められなかった。

予察園におけるナミハダニの発生は、余市町Aで6月1半旬に認められた。余市町Aでの発生量は平年より少なかった。長沼町および余市町Bでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.6	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0	0
2半旬	0	0.8	-	0.1	-	0	0	0	-	0.3	-	0
3半旬	0	0.1	0	0.4	0	0	0	0	0	0.3	0	0
4半旬	0	0.1	0	0.5	0	0.3	0	0.2	0	0.3	0	3.3
5半旬	0	0.6	-	0.2	-	0	0	0	-	1.0	-	3.2
6半旬	0	0.5	-	0.1	-	0.3	0	0.2	-	6.3	-	1.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

7. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップ誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、余市町Aで平年よりやや少なく、余市町Bでは平年より多かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町で平年より多く、札幌市で平年並、岩見沢市、石狩市、壮瞥町および七飯町では平年より少なかった。伊達市および旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.7	0	3.4	0	1.9
2半旬	0	0.5	0	1.4	3	0.6
3半旬	1	0.2	13.1	0.5	9	0.1
4半旬	6.3	0.1	10.6	1.3	33.7	3.5
5半旬	5.9	1.2	9.3	9.8	69.3	11.8
6半旬	0.8	2.4	38.6	103.7	55.7	31.7
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	4.6	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0	0.5	0	4.3	0	0	2	6.4
2半旬	0	1.6	0	0.3	0	0.2	0	1.3	0	3.7	0	1.4	0	0	1	1.0
3半旬	0	0.3	0	0.4	0	0	0	0.6	0	7.4	0	0.3	0	0	0	0.7
4半旬	0	0.3	0.7	0.6	0	0	0	1.2	1	20.9	0.4	1.3	0	0	26	4.5
5半旬	0	4.4	1.3	0.7	0	7.2	0	1.5	2.5	29.5	2.1	15.5	0	1.4	446	11.8
6半旬	3.2	24.5	1.0	0.6	2	12.0	0	3.8	1.2	41.5	15.9	84.2	0	0.8	373	133.6
平年数	10		10		5		10		10		10		8		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

道内未発生害虫「ツマジロクサヨトウ」侵入警戒中！

本年7月に九州地方において国内で初めて発生が確認された害虫ツマジロクサヨトウについて、農林水産省ではまん延防止対策を緊急実施しています。（付記チラシ）

ツマジロクサヨトウ（学名：*Spodoptera frugiperda*、英名：fall armyworm）は、長距離飛来性の極めて広食性なヤガ科の害虫です。老熟幼虫は体長3～4 cm程度になります。南北アメリカ原産で、2016年にアフリカ大陸で発生が確認されて以降、2018年には南アジア地域、2019年には中国に発生が拡大しました。日本では本年7月に初めて九州地方で発生が確認されました。

日本国内ではとうもろこし（飼料用、スイートコーン）での被害が報告されていますが、原産地域では、とうもろこしだけでなく、水稻、牧草、豆類、いも類、てんさい、野菜類（あぶらな科、うり科、なす科、きく科、ねぎ類、アスパラガス、にんじんなど）、花き類、果樹類の広範な作物に対する加害記録があります。

北海道では発生は確認されていませんが、海外では広範囲に急激に拡大していることから、早期発見が重要です。疑わしい虫を見つけた場合は、病害虫防除所、農業試験場または最寄りの農業改良普及センター等までご連絡をお願いします。写真を撮影する場合は、下記の特徴がわかるように注意してください。

<他の害虫種の幼虫と見分けるためのポイント>

- ① 幼虫の頭部は暗色で逆Y字型の白い模様が目立つ（アワヨトウは八の字型の黒い模様、オオタバコガは淡色から黄褐色で模様が目立たない）
- ② 幼虫の胴体各体節の背面には黒点があり、特に尾端近くの体節の黒点は目立ち正方形に並ぶ（ヨトウガ、アワヨトウと異なる）

参考情報（2）の画像を参照ください。

【参考情報】

- (1) 農林水産省ホームページ ツマジロクサヨトウ対策について
(URL：<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/190709.html>)
- (2) CABIホームページ How to identify fall armyworm
(URL：<https://www.cabi.org/isc/FullTextPDF/2017/20177800461.pdf>)
- (3) 松村、大塚、吉松（2019） ツマジロクサヨトウの中国における分布拡大と日本への侵入警戒. 植物防疫 73：434-438
- (4) Montezano, D. G. et al. (2018) Host plants of *Spodoptera frugiperda* (Lepidoptera: Noctuidae) in the Americas. African Entomology 26(2), 286-300

「ツマジロクサヨトウ」の特徴

特徴

- 幼虫は大きくなると体長約 4 cm, 体色は下の写真のように変化があります。
- 頭部には網目模様があって「逆Y字」に見えます。
- おしり側に褐色や黒色で盛り上がっている部分があります。



[1]

被害の状況



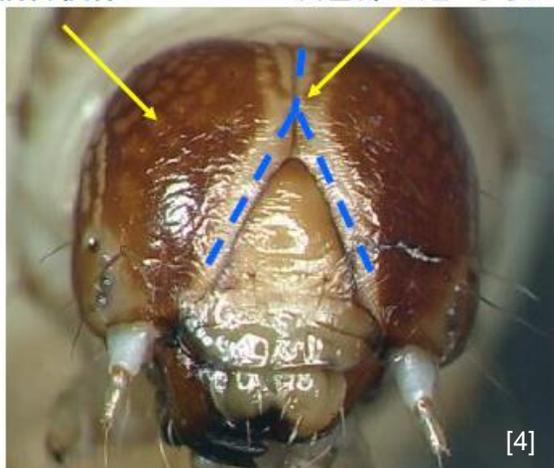
[3]



[2]

網目模様

淡色部は逆Y字状



[4]



刺毛基板は大きく、盛り上がる

[5]

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。